⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の816億円の受取超過から、２兆1,842億円の支払超過となった。収入は、前年同期（3,349億円）に比べ、1,278億円減少して2,071億円となった。一方、支出は、前年同期（2,533億円）に比べ、２兆1,381億円増加して２兆3,913億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入2,928億円、支出6,037億円、差引き3,109億円の支払超過であって、前年同期（4,647億円の支払超過）に比べ、1,538億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入10兆5,412億円、支出11兆1,830億円、差引き6,419億円の支払超過であって、前年同期（3,958億円の支払超過）に比べ、2,461億円支払超過額が増加した。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成22年度第２・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	308,135	137,967	170,168	295,259	188,999	106,260
国債(１年超)	305,230	135,062	170,167	292,450	186,191	106,259
借入金	2,905	2,905	0	2,809	2,808	1
国庫短期証券等	981,273	971,293	9,980	1,111,496	1,009,662	101,834
国庫短期証券	881,948	876,968	4,980	1,017,171	913,662	103,509
一時借入金	99,325	94,325	5,000	94,325	96,000	△ 1,675

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、17兆168億円の受取超過であって、前年同期（10兆6,260億円の受取超過）に比べ、６兆3,908億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行30兆5,230億円、償還13兆5,062億円、差引き17兆167億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入2,905億円、償還2,905億円、差引き０億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、9,980億円の受取超過であって、前年同期（10兆1,834億円の受取超過）に比べ、９兆1,854億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行88兆1,948億円、償還87兆6,968億円、差引き4,980億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入９兆9,325億円、償還９兆4,325億円、差引き5,000億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 10,005	△ 46,757	△ 56,762
特別会計等	△ 18,403	99,081	80,678
財政投融資	41,171	32,889	74,060
社会資本整備事業	△ 3,109	6,478	3,369
外国為替資金	△ 21,842	1,399	△ 20,443
保険	△ 6,419	1,646	△ 4,773
その他	△ 28,204	56,670	28,466
小計	△ 28,408	52,325	23,916
国債等	170,168	△ 7,449	162,719
国債（１年超）	170,167	△ 7,755	162,412
借入金	0	307	307
国庫短期証券等	9,980	△ 44,876	△ 34,896
国庫短期証券	4,980	△ 36,289	△ 31,310
一時借入金	5,000	△ 8,587	△ 3,587
合計	151,739	—	151,739
調整項目	3,205	—	3,205
総計	154,944	—	154,944

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成22年度第２・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 36,095	8,899
特別会計の債券売・買（△）	△ 70,372	△ 101,586
財政投融資	△ 66,500	△ 61,001
国債整理基金	△ 3,872	△ 40,585
その他	△ 43,857	△ 76,273
計	△ 150,323	△ 168,960

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、15兆323億円の支払超過であって、前年同期（16兆8,960億円の支払超過）に比べ、１兆8,636億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達８兆2,130億円、資金返済11兆8,225億円、差引き３兆6,095億円の支払超過であって、前年同期の8,899億円の受取超過から支払超過となった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、７兆372億円の支払超過であって、前年同期（10兆1,586億円の支払超過）に比べ、３兆1,214億円支払超過額が減少した。財政投融資は、６兆6,500億円の支払超過であって、前年同期（６兆1,001億円の支払超過）に比べ、5,499億円支払超過額が増加した。国債整理基金は、3,872億円の支払超過であって、前年同期（４兆585億円の支払超過）に比べ、３兆6,713億円支払超過額が減少した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、４兆3,857億円の支払超過であって、前年同期（７兆6,273億円の支払超過）に比べ、３兆2,416億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（15兆4,944億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（3,205億円の受取超過）を除いた収支は、15兆1,739億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、15兆323億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆500億円）に比べ、1,416億円増加して１兆1,916億円となった。